

岡井隆賞

汽水域

京都 澤田 悠生

放課後の理科室に満つプランクトン死後もひかりを放つ机ら

てのひらにスポイトの水のせやれば指の間に水鳥のゆめ

愛すとは互いのなかに一万の蝶を放ちて殺し合うこと

生ぬるきレバーのごとき夕闇を噛みちぎりつつ坂を歩めり

顕微鏡越しに見えたる生殖器 放課後きみが忘れたノート

受賞のことは



この連作は、ある場所を訪れた時の記憶から生まれました。そこで目にしたのは、言葉にすることを長くためらわせるような光景でした。いつか詠まねばならないという思いが、澱のように胸の底にずっとありました。

タイトルの「汽水域」は、海水と淡水が混じり合う場所です。生と死、日常と非日常、私とあなた。相反するものが溶け合い、曖昧な濃度のまま漂う境界を意識して表現しました。

この連作の舞台として選んだのは、学校の理科室です。大きな机、スポイト、顕微鏡。生命を観察するための道具に囲まれた空間にすべてを託しました。残酷さと無邪気さが混在するこの場所こそが、あの記憶を乗せるのにふさわしいと感じたのです。

まだまだ拙い部分ばかりですが、この受賞を大きな励みとし、これからも一首一首を大切に紡いでいきたいと思えます。本当にありがとうございます。